

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

B中学校3年生の生徒Cは、1歳6か月の健診で難聴を指摘され、病院で精査を受け、両側高度難聴と診断された。補聴器装用指導を受けたが効果が見られず、2歳の時に右人工内耳埋め込み術を受け、聴力レベルは、両耳115dB、人工内耳器械装用で40～45dBと診断されている。5歳までD聴覚特別支援学校に通い、言語の勉強や発音訓練などを受けている。幼稚園、小学校と通常の学校に通い、小学校では難聴特別支援学級に入り、交流学习では前で話す先生にFMマイクを着用してもらい、担任にそばで補助をしてもらっていた。中学校も難聴特別支援学級に在籍しており、授業では先生がゆっくり口を大きく開いて見せたり、ジェスチャーを使ったり、メモをとったりするなどして教えている。また、板書を多くしたり、ICT機器を活用したりするなどして視覚的に伝わるよう配慮している。

1 対象生徒の障害種

聴覚障害

2 障害の程度

該当(聴覚障害)

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

中学校・特別支援学級

4 学年

中3

5 対象生徒の実態

- ・感音性難聴 ・両耳先天性内耳奇形(蝸牛形成不全)
- ・身体障害者手帳(1種2級)
- ・聴力レベル 両耳115dB
- ・人工内耳装用 40～45dB
- ・普通公立高校への進学を希望している。
- ・道徳、学活、総合などの授業は交流学級でみんなと一緒に受けており、難聴特別支援学級担任が補助に入り、聞き取れなかったことや伝わらなかったことは、ゆっくり口を大きく開いて見せたり、ジェスチャーを使ったり、メモをとったりするなどして伝えている。また、教科学習では板書を多くしたり、ICT機器を活用したりするなどして視覚的に伝えるよう配慮している。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

保護者と本人から、FMマイクの着用のお願いと、できるだけ交流学級でみんなと一緒に学びたいという申し出があった。管理職、学年団、教科担当、特別支援学級担任で協議し、道徳科・学活・総合的な学習の時間や交流可能と判断した授業は、難聴特別支援学級担任を中心に補助の教師が必ずついてサポートすることになった。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎④ 教材の確保

難聴のある生徒の指導において、視覚的な機器を使った授業は欠かせない。各教科の授業では、難聴特別支援学級の生徒Cに配慮し、プロジェクターや書画カメラを使うなど、視覚的に分かりやすく伝える指導を行うことができています。

基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

交流学級で一緒に授業を受けたいという本人の強い意志があり、交流学級で受けられる授業に難聴特別支援学級担任が入り、聞き取れなかったことや伝わらなかったことは、ゆっくり口を大きく開いて見せたり、ジェスチャーを使ったり、メモをとったりするなどして教えている。また、教科学習では板書を多くしたり、ICT機器を活用したりするなどして視覚的に伝わるよう配慮している。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

学校の友達とトラブルなどはほとんどなかったが、ちょっとした口論を気にして不安になることがあった。

2年生になると周りの友達も難聴について理解し接してくれるようになった。連絡ノートで学校での様子などを毎日保護者に伝え、気になる事などを伝え合うことで少しの変化も見逃さず、学校に来やすい環境を整えていくことができた。

2、3年生は1度も学校を休むことがなかったことは、大きな成果であった。

合理②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

D聴覚特別支援学校からゲストティーチャーを招いて、全校生と教師向けに学習会を開催した。学習会では、人工内耳や補聴器の聞こえ方の体験や難聴の方に接するときの手助けの方法等を教えていただき、難聴のある生徒への理解や接し方などが以前より深まった。保護者からも学校の取組を理解してもらう機会となった。

9 成果と課題

学校生活は、友達や教師に助けってもらいながらも日々地道に努力し、入学時よりも色々な事に積極的に取り組むことができるようになった。交流学級で授業を受けることで周囲も本人のことを理解し、良い関係が築けている。

難聴特別支援学級で個別の指導を受けることで、学力もみんなから遅れることなく維持できている。また昨年度から自身の障がいについての作文を書き、校内主張大会にも出場した。全校生やたくさんの人を前に「誰かの手助けなしでは送れなかった学校生活が、みんなのお陰で送ることができています」と感謝の言葉を書いており、自分の思いを伝えることができた。その経験は大きな自信となった。

学校生活では、周りの生徒がよく理解しサポートをしてくれているが、何より自分から積極的に困難を解消する努力ができるようになった。苦手な音楽も、校内音楽会では合唱を楽しみ、周囲とバランスをとり歌えるようになった。自ら主体的に取り組む姿勢が芽生えた。

手話の練習に何度かチャレンジしたが、現在は使うことがないため、必要性を感じておらず身につけることができなかった。授業以外の時間で手話の練習をする時間もとれなかったが、今後の生活に向けて、練習する必要がある。